

多摩セクション



東京マガジンバンクカレッジ

2020.3
第8号

武蔵国の国分寺と 国府を訪ねて

東京都立多摩図書館

『東京マガジンバンクカレッジ』第8号の刊行にあたって

『東京マガジンバンクカレッジ』は、カレッジのイベント参加者に原稿をいただき、作り上げる雑誌です。

表題のイベント「武蔵国の国分寺と国府を訪ねて」（令和元年10月6日実施）は、東京マガジンバンクカレッジ多摩セクション講演会「武蔵国の中枢としての『多摩の魅力』—教科書と史跡・文化財から古代の多摩を読み解く」（同日実施）に参加された方が、講演で取り上げられた場所を講師とともに歩き、学んだ知識を体感したイベントです。

平成29年度地域散歩「多摩を歩く～江戸から東京へ散歩～」、平成30年度地域散歩「^{つわもの}兵の跡を歩く～東村山を中心として～」に続く第3弾にあたる今回は、「多摩の古代」をテーマに、国分寺・府中に遺る史跡を訪れました。（平成29・30年度地域散歩の様子は、『東京マガジンバンクカレッジ』第2・3・6号に収録されています。）

イベント後、現地で感じたことを写真や文章で綴っていただき、さらに何人かの方には編集作業にも御協力いただき、1冊の雑誌にまとめました。参加者の皆様とともに、多摩の歴史の奥深さと散歩の楽しさをぜひ味わってください。

表紙写真

国分寺薬師堂

建武2（1335）年、新田義貞の寄進により建立されたと伝えられている。
宝暦年間（1751-1764年）に現在の場所に建て替えられた。



目次

■ 講師紹介	2
■ 当日の行程	4
■ 当日の地域散歩コース	6
■ <small>とうさんどう む ぎしみち</small> 東山道武蔵路跡	8
■ 国分寺薬師堂	12
■ 武蔵国分寺跡資料館	16
■ お鷹の道・ <small>ま すがた</small> 真姿の池湧水群	20
■ 武蔵国分寺跡	24
■ 七重塔跡	28
■ 武蔵国分尼寺跡	32
■ <small>おおくにたま</small> 大國魂神社	34
■ 武蔵国府跡	36
■ <small>こうあん じ</small> 高安寺	38
■ 複数スポットの紹介	40
■ 「東京マガジンバンクカレッジパートナー」の御案内	42
■ 執筆者一覧	43
■ 編集後記	44



講師紹介

せん だ なお と
仙田 直人 氏

品川女子学院校長
前東京都立三鷹中等教育学校長
前全国歴史教育研究協議会会長
中央教育審議会教育課程部会社会・
地理歴史・公民ワーキンググループ委員

[主な著作等]

『大学入学共通テスト 日本史トレーニング問題集』
(山川出版社 2019)

『東京グローバル散歩』(共著、山川出版社 2016)

『東京多摩散歩25コース』(山川出版社 2004)



講師コメント

——地域散歩を振り返って、いかがでしたか？

都立多摩図書館の東京マガジンバンクカレッジの多摩セクションに於いて、今回3度目の講演会と地域散歩を担当させて頂き、本当に感謝しております。今回は、「武蔵国の中枢としての『多摩の魅力』」をテーマに、「教科書と史跡・文化財から古代の多摩を読み解く」を主眼として実施させて頂きました。地域散歩では、古代の中枢であったことを一番実感できる、武蔵国の国分寺と国府の跡を中心に巡らせて貰いました。多摩図書館の前を南北に走っていた道幅12mを誇る東山道武蔵路、古代の伽藍配置が鮮明に蘇る武蔵国分寺と国分尼寺跡の礎石群、「金光明四天王護国之寺」の扁額がかかる薬師堂や出土品から往事を偲べる武蔵国分寺跡資料館、国庁跡の柱が再現されている武蔵国府跡やVRで当時を再現した国司館跡、国府の壮大さとその雰囲気醸し出す武蔵の総社大國魂神社、平将門を討った藤原秀郷を祀る秀郷稻荷がある高安寺など、長い行程でしたが、皆様の知識欲の高さと機敏な行動力に助けられ、無事に終わることが出来ました。本当に有り難うございました。

——今回特に伝えたかったスポットはどこですか？



まずは、古代の多摩地区が武蔵国の中枢としてどのような規模を誇っていたのかを実感して頂くことです。国分寺では、最近整備された伽藍の礎石群や武蔵国分寺跡資料館等から、その壮大さを知り、教科書に載る聖武天皇が提唱した「鎮護国家」の思想が各国に伝わった奈良時代の姿を伝えたいと思いました。10月10日しか開帳しないとご紹介した、古代の姿を魅せる如来像を安置する国分寺薬師堂に行かれた方は尚

実感できたかと思います。また、武蔵国府跡では、国府を担った往事の府中の町の姿を、東山道武蔵路や国司館跡、大國魂神社等から推測して貰うことです。教科書の字面だけから推測してしまう奈良時代の姿を、地域の史跡や文化財から読み解くことが出来ることを感じて頂けたら幸いです。

——最後に、参加者及び読者の方へメッセージをお願いします。

講演会に加え、地域散歩にも参加して頂き、本当に有り難うございました。この散歩で、武蔵国の中枢であった多摩地域を実感して頂けたでしょうか。近代・近世、中世、古代の多摩をテーマとして、3年にわたり、地域散歩を行いました。まだ多摩には教科書の歴史を実感できる史跡や文化財が数多くあります。もし、機会が得られるようでしたら、皆様方と一緒に散歩が出来れば幸いです。また、お会いできることを楽しみにしております。



当日の行程 令和元年10月6日(日)



13:00

とうさんどう むさしみち
東山道武蔵路跡 (集合)



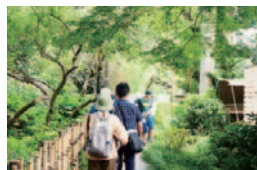
国分寺薬師堂



武蔵国分寺跡資料館 [有料]



お鷹の道・^{ますがた}真姿の池湧水群



武蔵国分寺跡



七重塔跡



武蔵国分尼寺跡



北府中駅



《 JR武蔵野線 》



府中本町駅



こくしのたち
国司館と家康御殿史跡広場



おおくにたま
大國魂神社宝物殿 [有料]



おおくにたま
大國魂神社本殿



ふるさと府中歴史館



武蔵国府跡



源義家公像



馬場大門のケヤキ並木



大國魂神社御旅所・府中高札場

こうあんじ
高安寺



新田義貞公之像



17:00

分倍河原駅（解散）

当日の地域散歩コース



- ① 東山道武蔵路跡（集合）
- ② 国分寺薬師堂
- ③ 武蔵国分寺跡資料館
- ④ お鷹の道・真姿の池湧水群
- ⑤ 武蔵国分寺跡
- ⑥ 七重塔跡
- ⑦ 武蔵国分尼寺跡



武蔵国分寺跡資料館



国司館と家康御殿史跡広場

- ⑧ 国司館と家康御殿史跡広場
- ⑨ 大國魂神社宝物殿
- ⑩ 大國魂神社本殿
- ⑪ ふるさと府中歴史館
- ⑫ 武蔵国府跡
- ⑬ 源義家公像
- ⑭ 馬場大門のケヤキ並木
- ⑮ 大國魂神社御旅所・府中高札場
- ⑯ 高安寺
- ⑰ 新田義貞公之像
- ⑱ 分倍河原駅（解散）



大國魂神社

東山道武蔵路跡

とうさんどうむさしみち



とうさんどう む さしみち
東山道武蔵路跡



ヤマト朝廷は律令制度を全国に及ぼすために、幹線道路（官道）を整備しました。東山道は七官道のひとつで、近江国から東に山伝いに続いています。東山道武蔵路は上野国を起点とする東山道の枝道で、武蔵国を南北に貫き、武蔵国府に至ります。また、奈良時代中頃に、仏教の力で国内を安定させるために、全国に国分寺（僧寺、尼寺）が造営され、地方の文化的・宗教的拠点となりました。武蔵国では、東山道武蔵路に面し、東に国分僧寺、西に国分尼寺が配置されています。武蔵国分寺と東山道武蔵路は密接な関わりを持つことが、近年の考古学調査で明らかになっています。

（上野 次郎）

国史跡に指定されている東山道武蔵路跡は非常に幅広く（12m）ひたすらまっすぐに伸びている。さしずめ奈良の都大路のように。近くに建立された国分寺も七重塔を持つ壮大なものだったので、中央の人々はよほど大きなものが好きだったのだろう。東山道の両脇には側溝跡も残っているが水が流れた形跡もなく、途切れ途切れにあるので目的はまだわかっていないとのこと、謎は深まる。律令制度の衰えとともに東海道、鎌倉街道に道をゆずり廢道となっていく。1300年以上前にこの官道を行き交った人々に



思いを寄せる。徴用された防人たちの進まない歩み、中央からの使者の馬の蹄、官吏の牛車の轍、税（調庸品）を中央に運ぶ人夫の足跡。消費税10%になったこの秋、万葉人に心を寄せながら散策するのも又乙なものかもしれない。（^o^）

M.M.

あまぬま

乗瀧駅はどこにあったか？武蔵国分寺の建立後には武蔵国は東山道から東海道へ所属替えになり、武蔵国府から下総国府へ古代東海道の乗瀧駅・豊嶋駅・井上駅が整備されたと文献続日本紀にあります。さてこの乗瀧駅はどこにあったのでしょうか。確固たる考古学的見解はまだ無いようです。古くから乗瀧駅は杉並区天沼（荻窪駅付近）という通説でしたが諸説あり、近年に練馬区貫井二丁目とする新説も現れました。

みなさんのご近所にも昔の道があるかも知れませんね、探してみると楽しいですよ。

武藤 功

東山道は、7世紀後半から8世紀前半にかけて、畿内の政権中枢が中央集権を強める一環として整備した交通インフラ、幹線道路の一つであり、その支路である武蔵路は上野国（群馬県）と武蔵国を結んでいた。多摩地区の人なら利用したことがあるであろう府中街道とほぼ平行して南下する道筋であるが、何とんでも、その道幅の広さに驚かされた。なんと12m!! 私の家は住宅街にあるとはいえ、周囲の道路は自動車の対面交通が許される公道で、それでも道幅は約6mである。7、8世紀の時代、人馬が行き来する程度の道路で12mという道幅が果たして必要であったのだろうか？それだけ栄え、交通量があったということなのか、権威の象徴という意味合いもあったのか等、様々な疑問がわいた。遺構や遺跡を見てあれこれと考えるのは実に楽しい。兎に角、その遺構再生展示と数百メートルにわたって側溝や道幅をアスファルト上に平面表記した東山道武蔵路跡は必見だと思う。

武蔵守峻時

昨年の地域散歩は中世の鎌倉古道で終わりましたが、今年は時代を遡って古代の東山道武蔵路で始まります。東山道武蔵路は律令制度の確立期（7世紀後半から8世紀前半）に整備された東山道の一部で、上野国から武蔵国府に至る幅員12mの古代ハイウェイです。武蔵路は武蔵国を南北に貫き、その遺構（跡）が川越市、所沢市、東村山市、小平市、国分寺市、府中市で見つかっています。東山道武蔵路の再生展示施設が、都立多摩図書館に隣接する総務省情報通信政策研究所の敷地内にあります。その施設はいつ

でも見学でき、往時の交通を偲ぶことができます。しかし、11世紀になると律令制度が衰退し、武蔵路も消滅してしまいました。

上野 次郎



国分寺薬師堂



国分寺薬師堂



国分寺薬師堂は、建武2（1335）年、新田義貞の寄進により、武蔵国分寺跡の金堂跡付近に建立されたと伝えられています。宝暦年間（1751-1764年）に現在の場所に建て替えられました。正面の厨子内には、平安時代末につくられた木造薬師如来坐像が安置されており、10月10日に年に一度の御開帳があります。また、堂内正面には、江戸幕府に登用された儒書家・深見玄岱^{ふかみげんたい}の筆による書が飾られており、国分寺の正称である「金光明四天王護国之寺」と書かれています。

（事務局）

新田義貞の寄進により金堂跡付近に建立されたが、江戸時代中期に現在の場所に再建されたということです。堂内には国の重要文化財「木造薬師如来坐像」が安置されており、当日は、1年に1回の御開帳（10月10日）に向け関係者が清掃等準備中でした。

良い機会と思い、10月10日に再度訪れました。坐像は2メートル近くの大きさで、左右に日光・月光の両菩薩、十二神将が存置され、また天井には植物が描かれ、とても見ごたえのあるものでした。

MS



都立多摩図書館が接している東山道武蔵路を南に進み、左に折れると、左手に1700年代に建てられた国分寺仁王門がある。仁王門の左右には、阿と吽の仁王像の2体が安置されている。この門をくぐり、階段を登ると、国分寺薬師堂がある。国分寺薬師堂は、新田義貞の寄進により、1300年代に建立されたが、分倍河原の戦いで焼失し、1700年代に当時より北側に建て替えられた。地域散歩で訪れた際には、薬師堂内を地域の方が丹念に清掃されていた。正面には、「金光明四天王護国之寺」の扁額があり、東大寺の勅額を模し、1700年代に奉獻された。仙田直人講師にお勧めいただいた



おかげで、年1回10月10日の御開帳である木造薬師如来坐像に出会うことができました。像高約2メートルで、平安時代につくられたとされる。日光・月光の菩薩を含む十二神将像は、1600年代の作とされているものもある。

S.O



御開帳の様子 令和元年10月10日



木造薬師如来坐像



天井に描かれた龍の絵

武蔵国分寺跡資料館



武蔵国分寺跡資料館



おたかの道湧水園の中にあります。入ったところのロビーに、往時の武蔵国分寺の立体模型が広がっています。この模型のまわりを巡ると、武蔵国分寺がいかに広大であったかを実感できます。

武蔵国分寺跡からの出土品が数々展示されていますが、いずれも説明が大変行き届いています。武蔵国分寺跡の現地を見る前も、見てからも、この資料館をご覧になるのをおすすめします。(YH)

天平の遺跡の紹介や展示は必見ですが、加えて魅力的なのが、古き武蔵野の農村を彷彿とさせるその周辺環境です。というのもこの資料館は江戸時代から続く名主だった本多家の旧居を活かして作られているからです。国分寺崖線を背にした湧水のある庭園は自然豊かで、訪れる私たちを季節ごとに癒してくれます。今回の地域散歩では、七重塔の模型と共にたわわに実った柿が迎えてくれました。開館10周年を迎え、かつて庭園内にあった池も再現されるそうで楽しみです。江戸末期の長屋門、周辺の農家の佇まいや、用水沿いの散歩道など、東京近郊にあってかけがえのない空間となっており、これからも大切に守っていただきたいと思います。

りんたろう



「原節子に似てるんですって」と誰かがささやく。左から見たり、右から見たり。下からも見上げた。失礼ながら、私の記憶にある「原節子」とはお見受けできなかった。30センチ弱、アーケイック・スマイル。法隆寺夢殿観音像に似ているので、白鳳時代後期の作とされているそうだ。昭和57（1982）年東山道武蔵路道路遺構から発掘されたという。欠損があるのは、武蔵路を往く牛車からこの持仏さまを落っことしたときのものか、など勝手な想像をしたくなる。

YH





お鷹の道・ 真姿の池湧水群

ま
すがた



お鷹の道・真姿の池湧水群

ま すがた

お鷹の道は、崖線下の湧水が集まり野川にそそぐ清流沿いの小径です。江戸時代に市内の村々は尾張徳川家の御鷹場に指定されており、それにちなんで、“お鷹の道”と名づけられました。現在約350mが遊歩道として整備され、国分寺を代表する名所として親しまれています。

真姿の池湧水群は武蔵野台地国分寺崖線にある真姿の池をはじめとする崖線下の湧水群で、お鷹の道と合わせた環境の良さを評価され、環境省選定名水百選に選ばれました。また、東京都の名湧水57選にも入っています。一年を通して濁れない、澄んだ清水が湧き出て、周囲の環境や訪れる多くの人びとを潤す、素晴らしい湧水群です。
(西山 一郎)

東山道武蔵路遺構再生展示施設を南下し、左折して進んでいくと、名主であった本多家の墓や屋敷の横を通って、お鷹の道に入っていくことができる。尾張徳川家の御鷹場であったことが、名前の由来である。さらに進み左折すると、真姿の池湧水群がある。野川に注がれる国分寺崖線からの湧水地であり、その手前左側には、真姿の池がある。絶世の美女といわれた玉造小町が病気で苦しみ、真姿の池を訪れたところ、「池で身を清めよ。」と言われ、美しさを取り戻したと伝えられている。その手前には、「本多園」

というカブ、ホウレンソウ、栗などの新鮮野菜の無人販売所がある。さらに階段を登り、左折して雑木林のみちを進むと、ヤマガラ、アオゲラなどに会うことができる。

K.O





K.O

武蔵国分寺資料館を出て少し歩くと、透き通っていて飲んでみたくなるような湧水が流れる小川に沿った小径に出ました。清流沿いの小径は“お鷹の道・真姿の池湧水群”と言われ、環境省選定名水百選のひとつとして、また、東京都の名湧水57選にも入っています。小川はハケ(段丘・国分寺崖線)からの湧水が集まり野川にそそぐもので、小径沿いにはカフェやとれたての地元野菜の無人販売所もあります。現在約350メートルが遊歩道として整備されており、四季折々の散策路として人気があり多くの人々に親しまれています。

写真のように草木や花が咲き自然のままの作りの小川沿いの小径をのんびり歩くと本当に癒される感じがしました。

西山 一郎



武蔵国分寺跡



武蔵国分寺跡



奈良時代中期、国内では大地震、干ばつによる不作と深刻な飢饉、疫病（天然痘）の流行が相次いで起こり、政治も混乱しました。ときの聖武天皇は鎮護国家のために国分寺建立の詔（741年）を発し、国ごとに、金光明四天王護国之寺という僧寺、法華滅罪之寺という尼寺の建立を命じます。武蔵国分寺はこのとき全国にできた約60寺院のうちのひとつ。伽藍は全国で最大規模です。建物はやがて、国分寺制度の衰退や、新田義貞と鎌倉幕府が争った分倍河原の合戦で焼失するなどでなくなり、全貌もわからなくなりますが、昭和以降の考古学的な知見に基づく発掘により、建物跡に基壇を作る、柱の位置を地面に印すなどで配置が再現され、現在、壮大な寺域を展望できる場所になっています。（A.H.）

一口に寺の造営と言ったって、とんでもなく膨大な労力の賜物。何をするにも人の手が主だった天平の人たち。例えば、私が切り株一つ取り去ることや、礎石一つ運ぶことをやったとしよう。たった、それだけなのに大汗かいてへとへとになることだろう。すぐに投げ出すに決まっている。ところが実際は、そうした作業が無数にあって辛く厳しい労作の末、この寺が建ったのだ。便利さ快適さに溺れた、我が生活を振り返った。何でも他者にやってもらっていることに改めて気付かされた。天平の人たちの力を集めて作られた国分寺。当時の人たちは何を大切にし、何に微笑んだのだろうか。この史跡が未来へ向けて残されていくことは、うれしいことだ。

稲葉 春紀

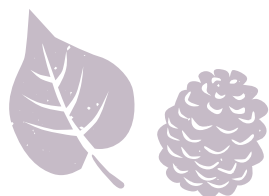


5年ほど前まで毎朝お鷹の道～国分寺跡地の横を通って通勤していました。その頃の国分寺跡は敷地内に礎石と思われる石が点在しているだけで、あたりにはまだ網目模様のついた破片もあちこちに落ちており、荒廃した感がありました。夏になれば雑草に隠れて礎石も見えなくなり本当にただの空き地のようでした。数年ぶりに訪れましたが、見違えるように整備されていてかつての建物の輪郭などがわかるようになっていて規模の大きさが感じられるようになっていました。以前に訪れて「何もない」と感じられた方はぜひ再訪をお勧めします。

KM

武蔵国分寺跡は、事前の準備をせず、唯訪れ、唯眺める事で何らかの満足を経験しようとする方にはお勧め出来ません。そこにあるのは、少しずつ高くなっていく幾固まりかの方形の大地、その中に置かれた、ゴツゴツした又は円形の岩、それだけです。でも予め、今から1300年程前の日本の社会で起こっていた事、その結果現在のこの場所に何があり、そこに誰がいて、彼らが何をしていたのかを、自分で調べ、考え、想像し、イメージを作った上で、来てみて下さい。ここが正しくその場所なのです。貴方の仮想の眼前に、天を突く塔、壮大な伽藍、国の安寧を祈る僧たちの姿が浮かんで来るはずです。視聴嗅味触を受動的に楽しむ観光地ではなく、能動的な思考による感動が得られる現場なのです。

上田 翔太



史跡というと現在の建物で覆われていることが多いが、ここはちがう。広々とした武蔵国分寺跡に、金堂、講堂、七重塔跡が忠実に再現（礎石は実物もあり）されていて、跡地のスケール、建物の配置が実感できる。隣接する資料館にはジオラマがあり、武蔵国分寺全体像を把握できる。発掘されたかわいらしい観音菩薩像、屋根瓦などが収蔵されている。屋根瓦は広範囲の地域から納められていて、古代の物の流通、人の往来は予想以上に盛んだったことを感じさせる。資料館入り口にはミニチュアの七重塔が置かれている。とても魅力的な建物であり、古代の人もあこがれて見上げたことだろう。史跡を歩きながら古代の人々の足跡や夢を想像するのはとても楽しい。国分寺市にはこれからも保存につとめていただきたいと思う。

A.H.

整備された中枢部の遺構だけでなく、背後に今だに生き残る国分寺崖線の自然林。周辺は高層建造物もなく広く南面が開け、この景観は古代国分寺を彷彿させるに十分な空間、建造物（ここは基壇・礎石等のみだが）や自然は、言葉や文字で説明しなくても強い印象と説得力を持つ。あとはある程度の知識と想像力でより深く理解ができる。寺院の盛衰も左右するのは建物よりも究極は人、つまり僧侶である。彼らの生き様から自分の生き方が学べるかも…。

佐々木 義身



七重塔跡



七重塔跡



七重塔跡は、金堂跡・講堂跡から東200mに位置します。塔は「金字金光明最勝王経」を安置し、武蔵国分寺の重要な施設でした。七重塔は三間（約10m）四方の建物で、高さは約60mあったと推定されました。中央に柄穴がある心礎を含め、7個の礎石が残っています。承和2（835）年に落雷により焼失した後、承和12（845）年に再建されました。新田義貞の鎌倉攻め（元弘3（1333）年）の際に、武蔵国分寺の多くの建物と一緒に七重塔は焼失したと考えられます。

（上野 次郎）

741年の聖武天皇の国分寺建立の詔に基づいて造営された武蔵国分寺の一面に建てられた仏舎利を祀る塔の跡である。木々の切れ間に静かにたたずんでおり、今は礎石しか残っていないが、説明板によると往時は高さが約60mあったとのことである。高層建物などほとんどなかった当時はおそら



く遙か遠方からも望み見ることができ、幅12mの東山道の大道を歩き来する人々からも見えたであろうと想像すると気宇壮大な気持ちになった。武蔵の国から徴発され、九州での務めを終えて家路に急ぐ防人がこの大塔を遠望して故郷が近いと胸をこがしたかもしれないとしばし古代のロマンに想いを寄せた。

TS生

武蔵国分寺跡から少し離れて七重塔の跡地がある。金堂や講堂の跡地とは道路等で隔たっているが、往時は敷地内にあったとのことである。武蔵国分寺跡と同時に7つの礎石が残っているだけで建物の痕跡も見ることができないが、近くの「おたかの道湧水園」には大きな模型が展示されており、昔の建築技術を偲ぶことができる。礎石と七重塔の説明看板以外は草地であり、近所の住民がギター練習をする等のどかな雰囲気、また桜の時期になると花見の住民が宴を開く場所となっているとのこと。1968年のあの3億円事件で犯人が車乗り換えたところとのこと、犯人がこの地をなぜ知っており利用したのか、いろいろなことを偲ぶことができる場所である。

安部 聡





武蔵国分尼寺跡



武蔵国分尼寺跡



奈良時代の中頃、聖武天皇は仏の力で国を安定させるために、諸国に僧寺・尼寺の建立を命じました。武蔵国では、都と国府を結ぶ東山道武蔵路沿いの東に僧寺、西に尼寺が配置されました。現在は、尼寺伽藍の中枢部を構成する中門・金堂・尼坊などの跡がわかるよう、建物の塀や柱などの位置を平面で再現しています。また、儀式などの際に周囲を飾るための旗などを掲げる柱跡である幢竿遺構もあります。
(事務局)

仙田先生に武蔵国分寺、国分尼寺を回って説明を伺いました。現在は住宅に囲まれた広場が当時は国分寺崖線を背に武蔵野の雑木林だったのでしょうか、それとも草の生茂る荒地だったのでしょうか。その中に荘厳な講堂、見上げるような七重塔がそびえ立つ光景は、国家宗教としての仏教が何であるかも知らない当時の普通の人々に何を思わせたのでしょうか。尼寺跡は、10人程の尼僧がいたのですがこの時代に全国の尼寺に尼僧を配置出来たことも驚きです。8世紀の伽藍跡に13世紀以降の鎌倉街道が横切っているのをみると、戦争というものが無かった時代の上に武士が槍や刀を振り回している時代が重なっていることがわかります。「兵どもが夢の跡」ではなく「まほろばの人々が夢の跡」の思いがします。今後500年1000年後には我々の夢の跡はどの様になっているのでしょうか。

吉田 節子



大お國お魂く神に社たま





大國魂神社は、東京都府中市に所在する武蔵国の総社で、東京五社の一社（他は、東京大神宮、靖国神社、日枝神社、明治神宮）です。武蔵国の一之宮から六之宮までを合祀していることから、「六所宮」とも呼ばれています。例大祭は、武蔵国の国府祭を起源とする「くらやみ祭」（東京都指定無形民俗文化財で、関東三大奇祭の一つに数えられている）です。『府中六所社伝』などの伝承によれば、景行天皇41年5月5日に大國魂大神がこの地に降臨し、それを郷民が祀った社が起源とされているとのことです。（井深 成仁）

大國魂神社は、初詣、くらやみ祭などの機会以外にも普段からしばしば訪れていますが、これまで宝物殿に入ったのは1階だけで、2階は初めてでした。1階の大太鼓は大迫力で、さらに、並んだ八基の煌びやかな御神輿と一緒に、お祭りの時とは異なって、まさに触れることができるような距離で（勿論触れてはいけませんが）眺めることができます。さらに2階には、歴史を物語る写本、徳川朱印状などの古文書、古鑑、奉納刀、大絵馬など、多様な展示物があり、大変興味深いものを目にすることができます。なお、平日は休館なのでご訪問の際にはご注意ください。

吉田 眞



武蔵国府跡



武蔵国府跡



武蔵国府は、奈良時代初めから平安時代中期（約1300年前～1000年前）まで、政治・行政・文化・経済の中心として国庁・国衙こくがなどの役所が置かれ、古代武蔵国の首都機能を果たしていました。役所跡は大國魂神社とその東側で発掘されており、北端は旧甲州街道南側、南端は大國魂神社本殿裏手、西端はふるさと府中歴史館付近で、東端はまだ明確ではありません。約1300年前に建てられた国司館こくしのたち跡は、府中本町駅東側に隣接しています。16世紀末頃に徳川家康がここに「府中御殿」を築き、豊臣秀吉の饗応や徳川秀忠との対談、鷹狩りなどで度々訪れていたとされています。（井深 成仁）

武蔵国府跡は大國魂神社の隣に役所の中核施設である国衙が、国庁の正殿跡に、柱の模型と地面の色分けで掘立柱建物の位置が示され、復元公開されています。国衙は昭和50年以降の調査により、南北300メートル、東西約200メートルの範囲の格式の高い建物が立ち並んでいたようで、復元では鏡の力を使って実際の大きさよりも大きく見せる演出です。

山邊 晶子



高こう

安あん

寺じ



こうあんじ 高安寺



室町幕府の初代将軍足利尊氏は、国と人々の平和を願い、全国に安国寺を建立しました。武蔵国の安国寺が高安寺です。高安寺が建立される以前この場所は、平将門を討ち取った功績で武蔵守となった藤原秀郷の館跡であったと伝えられています。境内には、秀郷を祀った秀郷稲荷や、鎌倉入りを許されなかった源義経一行がこの地を訪れた際、武蔵坊弁慶がこの井戸の水を使って墨をすり、写経したといわれている弁慶硯の井戸があります。(事務局)

高安寺は曹洞宗の古刹で龍門山等持院高安護国禅寺と称し、前身は市川山見性寺である。平将門の征討に戦功のあった藤原秀郷が武蔵国守の時の館跡で、鎮守として秀郷稲荷が祀られている。

1333年の分倍河原の戦いでは新田義貞は見性寺に本陣を構えた。その後足利尊氏が諸国に安国利生の寺を建立した。等持院は尊氏の法号であり、室町幕府の庇護を受け鎌倉公方の陣所と化した。

また平家滅亡後に鎌倉入りを許されなかった源義経も立ち寄っており、武蔵坊弁慶が大般若経を書き写したと言われている。

高安寺は以上のような興味深い歴史を感じさせる静かな史跡であり、荘厳な山門など一見の価値がある。

kidream





全コース

武蔵国分寺と武蔵国府を訪ねての散歩は古代7～9世紀の武蔵国の政治・文化・インフラを巡ることであった。

国府の遺跡群は多摩川の洪水の影響を受けない立川面の段丘に中枢を設けていた。国分寺・尼寺は当時の詔に沿った中心地から少し離れた閑静な斜面高地に仏教文化で社会不安を鎮めていた。これら施設と中央との人事交流や通信の武蔵路があった。その後の時代から取り残され遺跡となって行くことから、なぜ衰退したのかを読み取ることで、新しい未来を描くことができるのではと考えます。

佐藤 巧

武蔵国分寺跡・七重塔跡～武蔵国府跡・大國魂神社

この二つの地は散歩で歩いたことはありますが、今回のように事前のレクチャーとガイドを受けながら歩くのは初めてでした。知らないことばかりです。

- *奈良時代の国づくりは、仏教普及を日本各地に行いながらすすめたこと
→武蔵国分寺跡
- *政治・行政・文化・経済も各地に拠点を設けてすすめたこと→武蔵国府跡
- *同時期に武蔵国中の神社を集めて武蔵国総社を創建した→大國魂神社
- *初めて知ったことばかりでした。

小林 文雄

こくしのたち

国司館と家康御殿史跡広場、大國魂神社、源義家公像、大國魂神社御旅所・府中高札場

武蔵国府跡（国司館跡地区）、大國魂神社、源義家像、高札場は、府中の街でのショッピング、散歩（散策）、懇親会、等の折りに、京王線府中駅やJR府中本町駅から近距離で、気軽に立ち寄れます。古代の武蔵国に思いを馳せながら、現代の文化・建築・人々の日常と対比するのも面白いと思います。法度や掟書を庶民に知らしめた高札場（旧甲州街道と府中街道の交差点南西側）は見落としがちですが、一見の価値ありだと思います。府中本町駅前の



国司館跡地区は、一昨年（2018年）11月に開設されて日も浅く、国衙跡地区（大國魂神社東側）と共に、武蔵国府跡として訪れる価値があると思います。

井深 成仁



「東京マガジンバンクカレッジパートナー」の御案内

【東京マガジンバンクカレッジ】

「東京マガジンバンクカレッジ」は、「雑誌の魅力を知る・創る・伝える」というコンセプトのもと、「雑誌総合」「鉄道」「多摩」の3つのセクションがそれぞれ又は合同でワークショップ、セミナー等を継続的にを行い、雑誌を仲立ちとする学びと交流の拠点を作り上げることを目指す活動です。

【東京マガジンバンクカレッジパートナー】

東京マガジンバンクカレッジは、参加していただくだけでなく、図書館職員と協力してイベントを作り上げていく方を求めています。その役割を担うのがパートナーです。

パートナーに登録していただくと、カレッジのイベントや雑誌に関する情報をメールマガジンでお知らせします。どなたでも申し込むことのできるカレッジのイベントでは、応募者が定員を超えて抽選になったとき、一定の範囲でパートナーを優先いたします。

パートナーの方には、講演会におけるマガジントーク、企画展示で展示するおすすめ雑誌の紹介をお願いすることもあります。そして、東京マガジンバンクカレッジでは、将来、パートナー自身が主体的にイベントの企画立案から実施までを行うことを目指しています。

※パートナーには、団体パートナーと個人パートナーがありますが、ここでは個人パートナーについて説明しています。

【パートナーになるには？】

パートナーになってみようと思われる方は、件名に「パートナー申請書送付希望」とお書きいただき、下記宛にメールをお送りください。折り返し申請書フォームを送ります。申請書に必要事項を御記入いただき再度送信してください。

その後、登録を承認した方にはメールで通知します。通知を受け取られたら、パートナーとしての活動が始まります！

なお、メールアドレスをお持ちでない方は、お電話で御相談ください。

是非パートナーに御登録いただき、一緒に東京マガジンバンクカレッジを作り上げていきましょう。

連絡先 Email : S9000044@section.metro.tokyo.jp

電話 : 042-359-4020

執筆者一覧

A.H.	安部 聡	武蔵守峻時
kidream	稲葉 春紀	武藤 功
KM	井深 成仁	山邊 晶子
K.O	上田 翔太	吉田 節子
M.M.	上野 次郎	吉田 眞
M S	小林 文雄	りんたろう
S.O	佐々木 義身	
TS生	佐藤 巧	
YH	西山 一郎	



編集後記

今回の散歩に参加された方々の記事はいかがでしたか？

教科書に書かれた史跡を実際に歩いて巡り、見ることで、文字や写真からだけでは読み解けない、古代の多摩の歴史や魅力をより身近に感じていただけたのではないのでしょうか。

講師を務めていただいた仙田先生に、心より御礼申し上げます。また、講演会及び地域散歩に御参加いただいた皆様、原稿を寄せてくださった皆様、この雑誌の発行に関係した、すべての方に御礼申し上げます。

今後とも東京マガジンバンクカレッジをどうぞよろしく願いいたします。

東京マガジンバンクカレッジ 第8号

令和2年3月発行

編集 東京マガジンバンクカレッジ事務局

発行 東京都立多摩図書館

〒185-8520 東京都国分寺市泉町二丁目2番26号

電話 042-359-4020

ホームページ <https://www.library.metro.tokyo.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



東京都立多摩図書館

